

吹雪の運転、ここに注意！

大型車は普通車の9倍事故を起こしやすい

午前8時～午後2時／直線道路／追突

北海道警が過去10年の事故分析

(2015/02/11 17:29)

「午前8時～午後2時」「郊外の直線道路」「追突」に注意一。

道警が過去10年の吹雪による視界不良時の交通事故を分析した結果、気を付けなければならない事故の「パターン」が見えてきた。

発生時間は6割が日中で、**追突事故が全体の半数以上。**
大型車は普通車の9倍事故を起こしやすいことも分かった。

道内は今冬も猛吹雪など荒天の日が多く、道警は「**多重衝突などの大事故**になりやすい」と注意を呼び掛けている。

道警が昨冬までの10年間に道内で起きた、吹雪による視界不良が原因の冬型の人身事故1466件を分析。

発生時間は**午前8時～午前10時**が298件、同10時～正午が296件、正午～午後2時が294件と、それぞれ事故全体の2割を占めた。

一方で交通量が多いため通常、事故が最も多いとされる朝夕の午前6時～同8時、午後4時～同6時は、それぞれ10・4%、6・6%と少なかった。

NPO法人雪氷ネットワーク（札幌）の竹内政夫理事は「**日中は太陽光が吹雪や路面の雪に反射して視界全体が明るくなり、『ホワイトアウト』の状態**になりやすい」と話す。

車のライトを点灯させても、周囲の明るさに溶け込んで見えにくいことも影響しているという。

月別に見ても、春が近づいて太陽の高度が高くなり、日照時間が長くなる**2、3月に事故が集中**。2月586件、3月511件と合わせて75%を占めている。

発生場所は、**郊外の直線道路**が768件と52%に上った。

郊外は道路脇が開けていることが多いため、都市部に比べて**地吹雪が発生しやすく、視界不良**になりやすい。

さらに、吹雪の時は整備されている**国道に車が集中**することが多く、国道での事故は637件と半数近くを占めた。

事故形態は、**追突**が867件と最多で全体の6割に。**立ち往生で停止したり、視界が利かないため減速した車への追突**が目立つ。

また道警は、車種ごとの交通量や事故発生の頻度などを基に、事故の起こしやすさ「事故率」を算出。普通車が1.0ポイント、軽自動車0.6ポイントなのに比べ、**大型車は9.1ポイント、中型車は6.7ポイント**に上った。

大型車の運転席は一般に普通車より1メートルほど高く、**吹雪でも視界が普通車より良い分、減速のタイミングが遅れる**傾向があるという。

道警交通企画課は「分析結果を参考に、**吹雪の時は早めの減速や徐行**を心がけ、安全運転に努めてほしい」としている。